



ご挨拶

東北農政局 和賀中央農業水利事業所
前豊沢川農業水利事業建設所長 齋藤 高志

久保田理事長はじめ、豊沢川土地改良区の組合員の皆様には、平素より国営豊沢川農業水利事業の推進にご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。令和4年度も引き続きよろしくお祈りいたします。

今年で事業も8年目となり、更新された取水施設、放流施設やダム管理事務所は、昨年より問題なく運用されています。

令和3年度は、洪水吐ゲート3門を更新する工事を8月に発注し、現在製作中であり、令和4年10月から毎年1門ずつ据付し、令和6年3月の完成を目指しています。また、小水力発電施設の水車や発電機の製作据付工事を令和3年10月に発注し、令和6年度の完成を目指しています。

コロナ禍が続く中、今年の冬は雪が多く厳しい気象条件の中で工事を進めて参りました。令和4年2月には放流警報機器や無線機を一部更新、令和4年3月には堤体左岸のシェルターを新設、さらに、小水力発電施設の下部工工事を施工中であり、6月までに完成させる予定です。引き続き発電所建屋建築工事を発注し令和4年度中に完成させ、令和5年度には水車や発電機の据付を行う計画です。

また、令和5年度以降には受変電施設やダム管理システムなどの工事を予定しており令和7年度の事業完了に向け計画的に工事を進めていきます。

これまで東北電力の電力線の容量不足に伴う募集プロセス参加のため滞っていた小水力発電施設の工事でも令和3年度から本格的に動き始めました。これからも安全に留意し、事業効果の早期発現を目指して工事を進めて参りますので皆様のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後に私ごとですが、3月31日で定年退職することになりました。2年間の在職中に頂いたご支援やご協力に感謝申し上げますとともに、国営事業への引き続きのご協力・ご理解を賜りたくお祈りいたします。

令和3年度工事実施状況



発電所下部工掘削状況 (2月)



堤体左岸シェルター据付状況 (3月)



理事長
久保田 泰輝

ごあいさつ

組合員の皆様には平素より当土地改良区の業務運営全般に亘り格別なるご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

また、行政機関をはじめ関係農業団体各位には、各般に亘る土地改良事業の推進にご懇切なるご指導、ご配慮を賜り、衷心より感謝申し上げます。

品薄や価格の高騰が顕著となり、食料の安全保障の問題が叫ばれております。国民全員が健康的な生活を送るために必要な食料を、必要な時に供給できることは国の最も大切な責任の一つであります。これからの目先の経済合理性を見直し、食料の安全保障の観点から農業の価値観の再認識と農業の生産基盤の更なる強化が注目されるようになってきております。

当地域は、県内の他地域に先駆けて、担い手の育成と生産コストの低減等を目的の中心に据えてほ場や暗渠排水等の整備に取り組んできましたが、整備から既に数十年を経過する地区が多く、基幹的な水利施設やパイプライン関連施設等の経年劣化が進み、これら施設の更新・改修に向けた対策が課題となっております。併せて大型農業機械の効率的な稼働や水管理の労力軽減等を視野に入れた更なる大区画ほ場整備の導入等も求められております。

本年三月十八日に開催した令和3年度通常総代会におきまして令和4年度事業計画、収支予算等をご決定いただきましたが、こうした課題解決に積極的に取り組む、改良区に課せられた基本的な使命を着実に果たすため、行政機関、関係農業団体と緊密に連携を図

りながら、事業の推進に役職員一同、一層の努力を傾注して参る所存でありますので、ご協力下さるようよろしくお願い申し上げます。

末筆になりましたが、新型コロナウイルスによる感染拡大は、私たちの日常生活を大きく変容させ、農業のみならず社会経済への影響が計り知れず、未だ収束の見通しが立たない状況となっております。組合員の皆様におかれましては、くれぐれもご自愛くださいますようお願いいたします。

一日も早い世界の平安を願うとともに、今後、大きな災害もなく安寧な一年となりますようご祈念申し上げます、ご挨拶いたします。

